

イタリア・フランス・ベルギー巡礼の旅を終えて  
～ワーレ神父様、ジョニー神父様と行く黙想と巡礼の旅～

巡礼から帰国して2週間が経ちます「決意と願い」を携えて臨んだ10日間の巡礼でした。祈りの時間、巡礼仲間との交流、美しい景色、美味しい食べ物、行きずりの人々との触れ合い・・・1つ1つが日常生活の中で輝きを持って蘇ってきます。

アシジでは谷村神父様のご案内でフランシスコ大聖堂を巡礼しました。ミサ後特別に案内して頂いた回廊から見たアシジの景観には目を見張りました。当日はアシジ自転車レース開催日と重なり交通規制があったので、一部予定変更を余儀なくされましたが、私にとっては聖キアラ教会を訪問する機会を得たのでそれもまた巡礼のお恵みだったように思います。宿泊は元修道院だったというアシジガーデン。朝早く庭を散歩しましたが、鳥の鳴き交わす声が素晴らしく、フランチェスコもキアラもきっと祈りの中でこの美しい鳴き声を聞いていたのだろうなと聖人を身近に感じました。サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会で見た「棘のない薔薇」がアシジの平和と愛を象徴しているようで印象的でした。

バチカンの教皇謁見であらためて世界に及ぶカトリック教会の一致を感じた後ルルドに向かい、川邨神父様同行の巡礼団と合流しました。ルルド聖域に初めて立った時、「招かれてここに来た」という実感に胸が熱くなり涙がこぼれそうになりました。マリア・プロセッションでは言葉も人種も違う人々が「アヴェ・マリア」という共通の祈りで結ばれ、力強い信仰のうねりを感じました。



翌日は朝から6時間並んで念願の沐浴が出来ました。沐浴を待っている間に祈りを捧げるマイクが回ってきました。声楽家の大島さんがアヴェ・マリア他を歌われ、我々を代表して素晴らしい祈りを捧げて下さいました。尊いルルドの水の中でただただマリア様にすがった一瞬を忘れることは出来ません。ルルドでは修道院で2泊お世話になりましたが、スペイン系の明るいシスター方の笑

顔と美味しいお料理に巡礼の緊張と疲労が随分癒されました。

川邨神父様同行の巡礼団とはルルドでお別れして我々はブリュッセルへ。この度の巡礼が特徴的なのは、このベルギー巡礼が含まれていることです。津山教会のワーレ神父様が3年毎の休暇でベルギーに帰国される時、信徒を連れて一緒にベルギーを巡礼したいというのがかねてからの神父様のご希望でした。TGVがブリュッセル南駅に着いた瞬間からワーレ神父様の足取りは俄然力強くなり、バスの中でもマイクは添乗員の長谷川さんからワーレ神父様の手に。グランプラスに近い神父様お勧めのレストランでムール貝の昼食を堪能し淳心会本部に向かいました。修道院の中には淳心会の博物館があり貴重な展示がされています。若かりし日のワーレ神父様の写真とも対面。この本部から大勢の神父様が宣教の志を高く持って世界中に派遣され現在に至る歴史を思うと胸がいっぱいになり、「よくぞワーレ神父様を我々の津山教会に！」と創始者のお墓に心からの感謝の祈りを捧げました。夕食後は神父様のお姉様のお宅に総勢20数名でお邪魔しました。91歳になられるお姉様はとても若々しく、3日ばかりで用意して下さったたくさんのケーキで私たち一同をもてなして下さいました。



翌日はアントワープへ。神父様が幼少時によく通われたという聖アマンダス教会で主の昇天の主日ミサにあずかり、共同祈願では埼玉、大津、広島、大阪、津山それぞれの教会からの意向が捧げられました。神父様がアントワープで是非見て欲しいと言われたのが聖バーフ大聖堂にある15世紀フランドル絵画の最高傑作「神秘の仔羊」です。ファン・アイク兄弟作の26枚からなる絵画には鮮やかな色彩でキリストの犠牲と復活を基にしたキリスト教世界が描かれていて圧巻でした。バスはその後ブルージュへ。中世の景観をそのまま留めているブルージュの町は運河が縦横に流れています。運河クルーズで船からの景観を楽しんだ後

ミケランジェロの聖母子像で有名な聖母教会、そして救世主大聖堂へ。共に荘厳な建物で教会全体がまるで美術館のようです。十字軍がコンスタンチノーブルから持ち帰ったという御血が納められている聖血教会は残念ながら閉館時間になっていましたが、実はこの御血にまつわる場所にその直後私たちは行くことになるのです。それはカルメル会ブルージュ修道院です。こちらではちょうど午後6時からの祈りの時間に参加出来ました。シスター方の歌は本当に清らかで「歌うことは祈り」だと実感しました。シスターお手製のケーキを頂きながら伺った話ですが、この修道院のあるお部屋の天上に実は御血が納められていると。誰もその正確な場所は知らないそうですが、御血を持ち帰って天上に隠したという神父様の話が残っているようです。大変神秘的な時間を過ごしました。



御血が納められていると伝えられている部屋

ベルギー巡礼最終日はアントワープに。聖ヨセフ教会では神父様の弟さんご夫妻にお会いし共に祈りの時間を持ちました。ひとときわ聳え立つノートルダム大聖堂では「フランダースの犬」に登場するルーベンスの最高傑作「キリストの昇架」「キリストの降架」「マリア昇天」等を目の当たりに鑑賞し魅了されました。ブリュッセル南駅で休暇に入られるワーレ神父様とお別れし、パリ経由で帰国の途につきました。

日常の生活に戻った今、巡礼で得た恵みがこれからの信仰生活において大きな支えになるだろうと確信しています。巡礼中「全てが祈りである」と言われたワーレ神父様の言葉を信仰の杖として、また新たな歩みを始めたいと思います。

イタリア フランス ベルギーを10日間でまわるハードな日程ではありましたが体調を崩す方もおられず、皆が一つの共同体となって最後まで良き巡礼が

出来たこと、スタッフ始めお世話になったすべての方々に心から感謝致します。  
最後になりましたがジョニー神父様は時にポーター、時に通訳として、いつも  
ユーモアを持って我々を助け支えて下さいました。有難うございました。

感謝のうちに。

テレジア 赤堀静子